

ファイル展開時のアラートへの対処法

ファイルを展開する際に、いちいちプロファイルの処理についてたずねられるのは非常に煩わしい。だからといってアラートの意味を深く考えずにOKしてしまったり、アラートが出ないようにしてしまうのは少々危険だ。最低限の設定はしておこう。

■ファイル展開時のアラート

アラート	カラーマネージメント	CIEカラー	デバイス値
プロファイルなし			
そのままにする	×	なし	変わらない
作業用RGBを指定	○	確定	変わらない
プロファイルの指定	○	確定	変わらない
埋め込まれたプロファイルの不一致			
作業用スペースの代わりに埋め込みプロファイルを使用	○	変わらない	変わらない
ドキュメントのカラーを作業スペースに変換	○	変わらない	変わる
埋め込まれたプロファイルを破棄	×	なし	変わらない
プロファイルの不一致をペースト			
変換(カラーの外観を保持)	○	変わらない	変わる
変換しない(カラー値を保持)	×	変わる	変わらない

■プロファイルなし



●そのままにする(カラーマネージメントなし)

プロファイルがない状態のまましておく。ファイルには何も手が加えられない現状維持の状態。ファイルに何もタッチしたくない場合の設定。

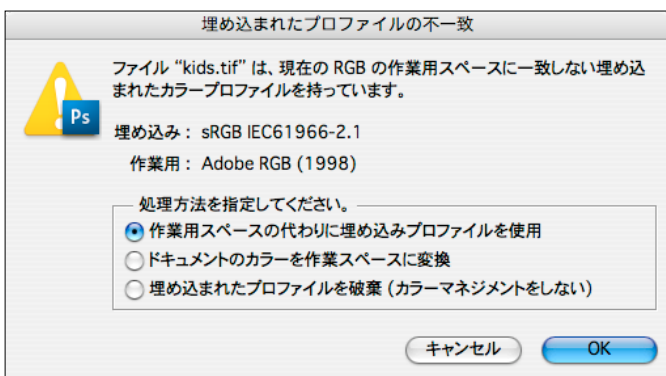
●作業用RGBを指定

カラー設定の作業用スペースで設定されているプロファイルが埋め込まれる設定。ファイルの本来のカラースペースがわかっていて、それが作業用RGBと一致する場合のみこの設定を選ぶ。もし、作業用RGBがAdobe RGBで、画像のプロファイルがsRGBの場合、色(CIEカラー)が変わってしまうので注意。

●プロファイルの指定

埋め込むべきプロファイルがわかっている場合に、そのプロファイルを指定して埋め込むことができる。さらに「次にファイルを作業用のRGBに変換します」を選べば、埋め込んだプロファイルを変換元として作業用RGBに展開することができる。

■埋め込まれたプロファイルの不一致



●作業用スペースの代わりに埋め込みプロファイルを使用

ファイルに埋め込まれているプロファイルが、作業用スペースに優先する設定。埋め込みプロファイルがそのままなので、デバイス依存値、CIEカラーともに変わらない現状維持の状態。何もタッチしたくない場合のおすすめ設定

●ドキュメントのカラーを作業スペースに変換

埋め込みプロファイルから作業スペースに対しての変換が行われる。たとえば、sRGBのドキュメントをファイル展開時にAdobe RGBに変換したい場合などに使う。見た目の色=CIEカラーを変えずに変換することが可能。

●埋め込まれたプロファイルを破棄

ファイル展開時にプロファイルが破棄される設定。カラーマネージメントができなくなってしまうのでDTPには向かない。ただしファイルを開いただけでは実際にプロファイルの削除は行われず、保存し直した時点でファイルは削除される。

■プロファイルの不一致をペースト



●変換(カラーアピアランスを保持)

ペーストした画像のプロファイルから、元の画像に向けて色変換が行われる。カラーの外観というのは見た目の色=CIEカラーのこと。画像を合成する場合など、それぞれのプロファイルが違っていると色がおかしくなるので、見え方が一致するようにカラーマネージメントを行うということ。

●変換しない(カラー値を保持)

カラーマネージメントを行わずに別ファイルをペーストすること。カラー値というのはデバイス依存値のことで、RGBやCMYKの数値自体は変わらないが、見た目の色は変化する。CMYK網点数値でコントロールしたい場合は、この設定でもかまわない。